

9) - 1 日形会誌編集委員会

委員長：櫻庭 実

委員：浅野 裕子、荒田 順、飯田 拓也、宇佐美泰徳、戎谷 昭吾
大浦 紀彦、大守 誠、覚道奈津子、檜山 和也、桑原 理充
小林 眞司、佐々木 薫、佐藤 伸弘、菅 浩隆、菅谷 文人
鈴木 健司、関 征央、大安 剛裕、手塚 崇文、時岡 一幸
富田 興一、鳥谷部 莊八、永竿 智久、成島 三長、塗 隆志
林 利彦、林田 健志、原岡 剛一、樋口 慎一、藤岡 正樹
堀 圭二郎、松崎 恭一、松峯 元、宮内 律子、宮本 慎平
百澤 明、安永 能周、楊井 哲、八巻 隆、山下 理絵
山本 直人

開催年月日：メール編集委員会

① 令和 4 (2022) 年 8 月 30 日、② 令和 4 (2022) 年 12 月 20 日

活動の概要：

1. 投稿論文進捗状況 令和 4 (2022) 年 1 月 1 日～令和 4 年 12 月 31 日
 - ① 投稿数 91 篇 (総説 1、原著 15、短報 2、創意・工夫 2、症例 69、手紙 2)
 - ② 掲載決定 45 篇 (総説 1、原著 7、短報 1、創意・工夫 1、症例 33、手紙 2)
 - ③ 進行中 24 篇 (原著 6、短報 1、創意・工夫 1、症例 16)
 - ④ 待機中 13 篇 (原著 1、症例 12)
 - ⑤ 却下 3 篇 (原著 1、症例報告 2)
 - ⑥ 取り下げ 6 篇 (査読中 - 症例 1、査読前不備修正 - 症例 5)
2. 専門医試験関連記事の掲載について
専門医認定委員会と専門医試験問題作成委員会の協力により、42 巻 5 号〈特集〉に 2021 年度 (第 44 回) 試験の総評と試験問題の解説を掲載した。
3. 優秀論文賞の選考について
日形会誌 42 巻 1～12 号 (対象論文 85 篇) から 2022 年度優秀論文賞の選考を行い、2 篇を受賞論文として選出した。
〈原著〉三柳 友樹, ほか (香川大学医学部附属病院形成外科・美容外科) : 頬骨骨折治療におけるプレート形態と骨変位の関係性についての実験的評価. 42 (9) : 521～526, 2022.
〈原著〉宗元 碩哲, ほか (大分市医師会立アルメイダ病院形成外科) : 壊死性軟部組織感染症と蜂窩織炎の鑑別のための新たな診断方法の開発. 42 (6) : 307～316, 2022.
4. オンラインジャーナル公開状況
公開先：J-STAGE
公開日：2023 年 2 月 6 日 (月)
公開号：第 43 巻第 1 号 (2023/1/20 発行)
公開数：8 篇 (論文 7 篇、後抄録 1 篇) ※認証機能付き
周知方法：メール配信、ホームページトップ画面お知らせ欄
※認証用購読者番号とパスワードはメールに記載
・ホームページのお知らせ欄と日形会誌のページから J-STAGE に移動が可能

9) -2 Journal of Plastic and Reconstructive Surgery 編集委員会

委員長：多久嶋 亮彦

委員：安倍 吉郎、荒田 順、荒牧 典子、飯田 拓也、上村 哲司
大浦 紀彦、大城 貴史、大塚 尚治、小川 令、覚道奈津子
加藤 久和、門田 英輝、河合建一郎、木股 敬裕、久保 盾貴
窪田 吉孝、権太 浩一、齊藤 晋、坂本 道治、櫻庭 実
佐藤 伸弘、清水 史明、副島 一孝、素輪 善弘、高成 啓介
田中 一郎、田中 克己、田中 里佳、津下 到、土佐 泰祥
冨田 興一、鳥山 和宏、中塚 貴志、沼尻 敏明、橋川 和信
橋本 一郎、林 明照、藤井 美樹、藤岡 正樹、藤原 敏宏
古川 洋志、堀 圭二郎、本多 孝之、前田 大介、松崎 恭一
松末 武雄、松村 一、水野 博司、元村 尚嗣、森本 尚樹
八巻 隆、山田 潔、山本 匠、吉村浩太郎

活動の概要：

開催年月日：Zoom 編集委員会

①令和5（2023）年1月31日

1. 投稿論文進捗状況(資料1)
2. 発行回数変更（年間2号から4号に増加）
3. Impact Factor 付与基準変更の報告と今後について
4. 海外からの投稿数増加のための戦略
5. 二重投稿の疑いのある論文について（2件）
6. 優秀論文賞の選考

日本人著者を対象にすべての編集委員に選考を依頼した。

優秀を3点にして、次点を1点にして合計すると

Imaizumi 論文：3点 X5人 + 1点 X1人 = 16点

Nishimura 論文：3点 X4人 + 1点 X4人 = 16点 と同点になる。

優秀を2点として、次点を1点とすると

Imaizumi 論文：2点 X5人 + 1点 X1人 = 11点

Nishimura 論文：2点 X4人 + 1点 X4人 = 12点、と nishimura 論文となる。

AEに再度の依頼を行ったところ、両者を優秀論文とすることとなった。

今後は外国人著者も含めて選考を行った方が良いのではないかと。

PDF 挿入

